

平成25年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判定	備考
1 地域の環境問題に積極的に関わる意欲と態度を育成する。	① 校内環境美化に積極的に取り組む。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース	【努力指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいるか	校内の環境・美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒 A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	昨年度は67%、今年度は72%であった。 毎月、マナー環境美化週間を設定して、校内の環境美化に取り組んでいるためか、生徒の校内の環境美化に対する意識は高い。後期はこの取り組みをさらにすすめ校内美化に努めたい。
	② ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深める。	全職員 各年次 各学科 各研究会	【満足度指標】 ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さを理解する。	里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	前年度は52%、今年度は55%であった。 里山里海の保全活動は、学校全体として3つの研究会が行っている。しかし、個々の生徒には、その意識が希薄なようである。後期は、専門家による講演会や発表会を通して、環境に対する取り組みを全校生徒に浸透させ、多くの生徒が里山里海の保全活動に参加する体制づくりを行いたい。
2 学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けてキャリア教育の充実・強化に取り組む。	① 10分間の朝学習（翠星タイム）を実施し、基礎学力等を身につける。	教務課 各年次 各教科	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組む、基礎学力を身につける。	基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	昨年度は68%、今年度は64%であった。 昨年度より新たなテキストを導入し、朝学習に取り組んでいるが、生徒は基礎学力の定着を実感していないようである。後期は判定テスト等を活用するなど指導の工夫を行いたい。
	② 生徒の授業評価や研究授業、互いの授業参観を通して、授業の工夫・改善を図り、「分かる授業」に積極的に取り組む。	教務課 各教科 全教員	【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	昨年度は73%、今年度は生徒が71%で、授業が分かりやすいと答えている生徒は、ほぼ同じような値の結果であった。後期は一人でも多くの生徒が、授業が分かりやすいと感じてくれるように、研究授業や互見授業を積極的に行い、授業改善に取り組む。
	③ 3年間を見通し、各年次に応じたキャリア教育を積極的に展開し、全員の進路実現に取り組む。	進学指導課 各年次 各学科	【成果指標】 就職試験において、1回目の内定率を向上させる。	就職試験1回目の内定率が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満		取組中

平成25年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判定	備考
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、マナー等の向上に取り組む。	① 登校指導や授業等を通してマナーの向上に積極的に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 自発的に大きな声で挨拶ができる生徒が増加している。	マナーが向上したと答えた生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	前年度は78%、今年は、79%であった。マナー環境美化習慣の等、全校あげての取組みの成果が表れていると思われる。また保護者のアンケート結果をみるとマナーが向上した生徒の割合は70%である。後期はさらに生徒、職員が一体となってマナー向上に向けての取組みを行っていききたい。
	② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者が減少している。	前年度に比べ、遅刻者の減少割合は A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	D	遅刻者の数は前年度298件、今年は417件で、その増加割合が40%と大幅な増加であった。月ごとの遅刻者数を前年度と比較してみても、やはり、今年度は4月当初から遅刻者の多い傾向が見られる。後期は、学校全体として遅刻者の減少に向けての指導を徹底していききたい。
	③ 登校指導、下校指導等を行い、交通安全指導に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 指導を受けた生徒が減少している。	前年度に比べ、指導を受けた生徒の減少割合は A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	B	6月末現在で、指導をうけた件数は前年度が133件、今年は97件で、27%の減少であった。前年度より、学校全体として下校指導に取り組み、その成果がでてきているように思われる。今後も、学校全体としての指導体制を継続するとともに、生徒の心に訴えるための講話等も計画し交通安全指導に取り組みたい。
4 部活動など課外活動への積極的な参加を促し、活力のある学校づくりに取り組む。	① 講習会、講演会などを積極的に取り入れ、部や研究会活動の活性化に取り組む。	特活課 農業クラブ 全教職員 各年次	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	前年度は66%、今年度は72%であった。今年度は、生徒全員が部活動に加入することを徹底したことにより、数値が上がったと思われる。また部活動の全員加入により学校全体に活力が出てきているように思われる。
	② 農業クラブ活動の活性化に取り組む、全国大会への出場者増加に取り組む。	農業クラブ 農業科 各研究会 各コース	【成果指標】 農業クラブ活動が活性化し、全国大会への出場者が増加する。	農業クラブ全国大会への出場者は A 16名以上 B 11名以上 C 6名以上 D 学校枠の5名のみ	C	前年度の全国大会への出場者は農業鑑定競技4名、平板測量競技3名の合計7名、今年度は農業鑑定競技4名、農業情報処理競技2名の合計6名の出場となった。北信越ブロック大会には、意見発表部門に1名、やプロジェクト発表の部門に1グループが出場したが、全国大会への出場はならなかった。今後は、先を見据えて計画的に指導する体制の確立を検討していききたい。